

おとさだ 乙貞	第 203 号 通 巻 36 巻 第 1 号 平成 28（2016）年 2 月 1 日 発行
	守 山 市 立 埋 蔵 文 化 財 セ ン タ ー TEL/FAX 077-585-4397
	〒524-0212 守 山 市 服 部 町 2 2 5 0 番 地

寒い日に梅の蕾^{つぼみ}もまだ堅く閉ざしております。もうすぐ節分の季節ですが、節分と言えばやはり豆撒き。諸説ありますが豆撒きの語源は「魔滅^{まめつ}」から来ており、邪気払いの意味があるといえます。そのようなことを意識して興^{きよう}じるのも面白いのではないのでしょうか。

さて、年が明けて当センターも様々な事業に取り組んでいます。また、春には春季特別展が控えており、その準備にも勤^{いそ}しんでいます。

今号では、昨年 12 月から今年 1 月にかけての市内遺跡の発掘調査と、開催イベントについてお伝えします。

発掘調査だより

1. ニノ畦遺跡第 1 調査区の発掘調査

店舗建築工事に伴い実施しました発掘調査では、古墳時代中期の方形竪穴建物が 1 棟検出されました。建物の規模は南北約 4.6m、東西約 5.1m で、北東隅近くに張出しが認められます。床面までの深さは約 40cm で、床の土は固くしていました。屋根を支える柱の穴は 4 つ、また中央近くに炉の跡とみられる床面が焼けた部分が 2 ヶ所確認されました。

壁際には周壁溝が掘られているほか、貯蔵穴とみられる土坑（大きな穴）が南東隅で確認されています。遺物は床面及びその直上から土師器を中心とした多量の土器が出土しています。中には完形の壺や高杯も含まれており、建物が廃棄^{はいき}された後、何らかの祭祀^{さいし}が行われた可能性が考えられます。

遺物はこの他に小型の滑石製勾玉（全長 9mm）が 2 点と初期須恵器が少量出土しています。特に初期須恵器の出土は市内では珍しく、今後市内の古墳時代中・後期集落を考えるうえで、貴重な資料となりそうです。（小島）

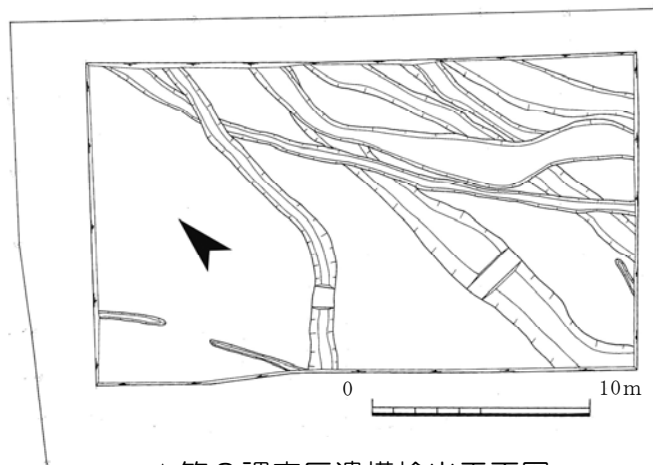


2. 二ノ畦遺跡第2調査区の発掘調査

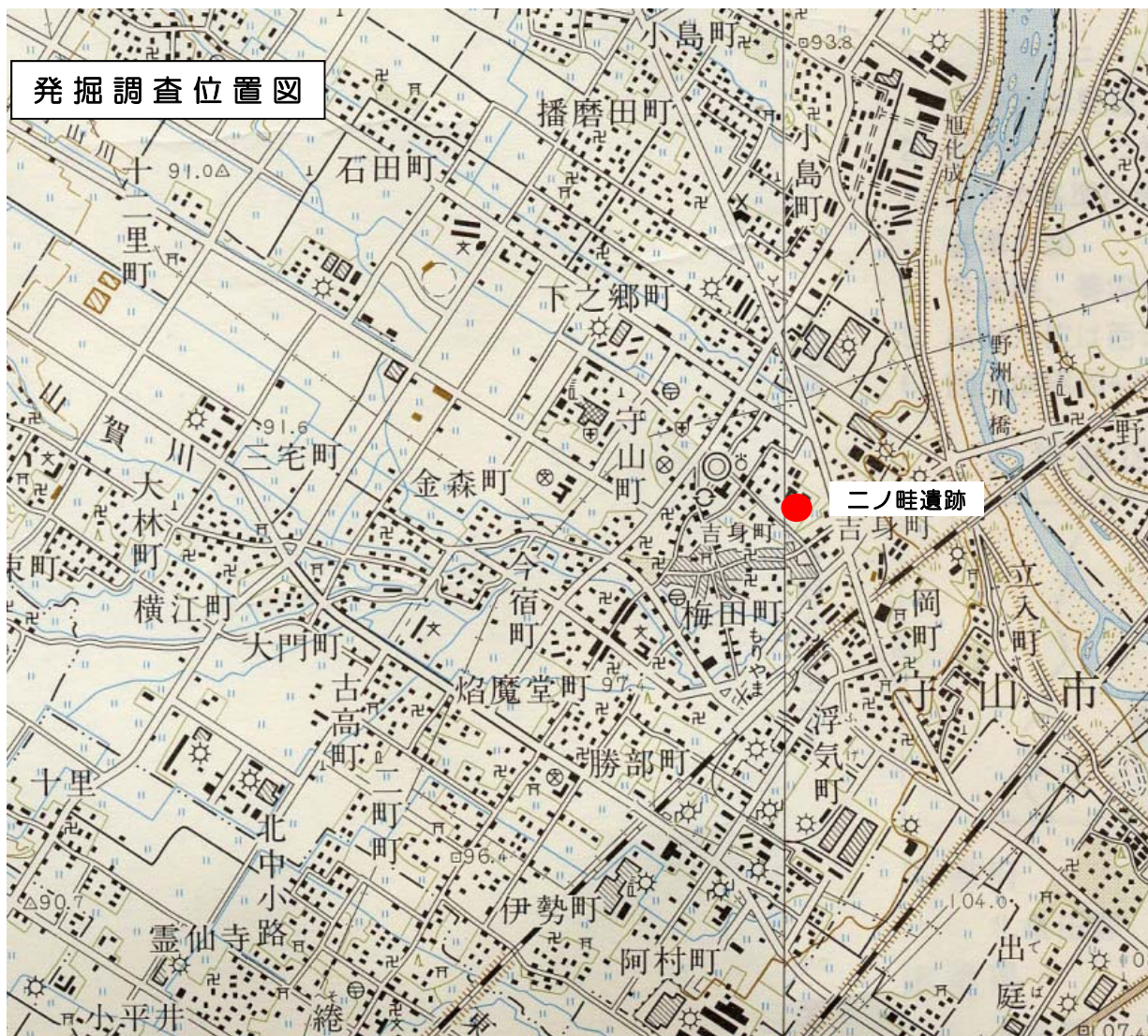
竪穴住居が検出された第1調査地点から、約70m北側にあたる第2調査地点を現在調査中です。この地点では、南から北に向かって伸びる蛇行した溝が多数検出されています。

溝は砂礫が厚く堆積しており、勢いよく流れていたことが想定されます。洪水のたび流れが変わっていて、自然流路とみられます。

調査地点は、弥生時代中期の環濠集落である二ノ畦・横枕遺跡に隣接する場所ですが、現在までの調査では竪穴住居等は検出されていません。（伴野）



△第2調査区遺構検出平面図



発掘調査位置図

二ノ畦遺跡

トピックス

琵琶湖の原風景を考えるシンポジウムを開催します！！

埋蔵文化財センターにおきまして、シンポジウム「近江の弥生時代を考える ムラ・墓・マツリ」を2月21日（日）に開催します。

このシンポジウムは、多くの皆さんに近江の弥生文化を知っていただくことを目的に滋賀県ミュージアム活性化推進委員会が主催するものです。参加無料、当時受付となっていますので、是非ご参加ください！

〈開催内容〉

開催日時 2月21日（日）
午後1時30分～4時
参加定員 70名（当日受付）
会場 当センター2階研修室
参加費 無料
日程 事例報告 大中の湖南遺跡（国史跡 近江八幡市）/服部遺跡（守山市）/大岩山遺跡（野洲市）
シンポジウム
（進行 成安造形大学講師・大橋信弥氏）
主催 滋賀県ミュージアム活性化推進委員会
共催 守山市立埋蔵文化財センター/野洲市歴史民俗博物館/滋賀県立安土城考古博物館

琵琶湖の原風景を考えるシンポジウム①

近江の 弥生時代を考える ムラ・墓・マツリ

滋賀県内に所在する弥生時代の遺跡について、3館の学芸員が大いに語り合います。



開催日時 平成28年2月21日 13:30～16:00
参加人数 70名
会場 守山市立埋蔵文化財センター 研修室
参加費 無料

13:30～13:35 開会の挨拶
13:35～14:05 大中の湖南遺跡 大津和久氏（滋賀県立安土城考古博物館）
14:05～14:35 服部遺跡 大橋信弥氏（成安造形大学）
14:35～15:05 大岩山遺跡 大橋信弥氏（成安造形大学）
15:05～15:15 休憩
15:15～16:00 シンポジウム 進行 大橋信弥氏（成安造形大学）



守山市立埋蔵文化財センター
〒520-0271 守山市大岩山1-1-1
TEL 077-555-4397

文化財講座

「駿河今川家最後の当主 今川彦五郎氏真」

開催のお知らせ

今回の文化財講演会は、桶狭間の戦いで織田信長に討たれた今川義元の子である今川氏真^{うじまね}を取り上げます。氏真は今川家第10代当主で、江戸時代には、自らが望んだ野洲郡に400石の所領を得ていますが、なぜ、本貫の地から遠くはなれた領地を求めたのかは明らかではありません。

この度の第19回伊豆文学賞で最優秀賞を受賞した「蹴れ、彦五郎」は、今川氏真を主人公にしたものです。その執筆者である今村翔吾（埋蔵文化財センター調査員）を講師に、今川氏真を通して、近江の織豊期～近世の動勢をさぐっていきます。

当日受付、受講無料ですので、興味のある方はご参加ください。

開催日時 3月19日（土）午後2時から
会場 埋蔵文化財センター研修室
受講定員 90名（当日受付・受講無料）
お問合せ 守山市立埋蔵文化財センター TEL・FAX 585-4397（火曜日休館）

埋蔵文化財センター友の会だより

埋蔵文化財センター友の会では、1月29日（金）に第4回見学会を開催しました。

埋蔵文化財センター友の会では、1月29日（金）に第4回見学会を開催しました。

今回は「織田信長の故地・美濃を訪ねて」というテーマで、大垣市の国史跡・昼飯大塚古墳と岐阜城、岐阜市歴史博物館を見学しました。

最初の見学は古墳の現地見学でしたが、あいにくの雨であったため、大垣市教育委員会のご協力により大垣市歴史民俗資料館も見学先に加えることができました。



△昼飯大塚古墳見学会風景



△大垣市歴史民俗資料館見学会風景

2番目の見学先である岐阜城では、博物館の見学の後、自由参加で半数以上の会員が金華山頂上の天守閣を見学しました。

会員の一人は、「悪天候の中、山頂まで上ったことは、ある意味思い出に残ります。今度は、天気の良い日に訪れたいと思います。」との感想を述べるなど、有意義な見学会となりました。

Facebook はじめました!!

埋蔵文化財センターでは、10月29日よりフェイスブックをはじめました。イベント情報や発掘調査状況をリアルタイムにお知らせしていきます。「守山市立埋蔵文化財センターFacebook」で検索してください。

後 記 当センターに、今村翔吾が昨年10月に調査員として加わったことは乙貞前号でお伝えしましたが、この度、第19回伊豆文学賞最優秀賞受賞の知らせを聞き、大変驚いています。戦国時代の今川家の最後の当主である今川氏真とその妻を描いた歴史小説とのことですが、十分な下調べを重ねた上での執筆が授賞につながったようです。平成27年度の歴史入門講座と関連することから、急遽、3月に文化財講演会を開催する運びとなりました。文章で表現することと、皆さんに語りかけることは違いますが、興味の有る方は是非、ご参加ください。お待ちしております。（所長記）